

8月9日 命の講話

「生きる」ということ

(前略)

みんなが今「生きている」のも命のリレーがあったからです。みんなの命は決して親からだけ授かったのではありません。親の親、すなわちおじいさんやおばあさん、そしてその親、曾おじいさんや曾おばあさん、またその親・・・遡ればみんなの命は誰から受け継いできたのか。分かりませんね。一つ分かることは、ご先祖様の誰か一人が欠けてもみんなは今ここにいないということです。そう考えると自分が自分として今、こうして生を受けたことの不思議さ、有難さ、「生きる」ことへの責任を感じませんか。

私たちの命がどこから来たのかもっと突き詰めれば、約46億年前に地球が誕生し、約38億年前に海の中での生命が誕生に行きつきます。地球上に生命が誕生した確率は「10の4万乗分の1」と言われています。例えて言うと、腕時計を分解して、バラバラになった部品を25Mプールに投げ込み、水の自然の流れによってまた元通りの腕時計になるぐらいの確率と言われています。そう考えると、今、私たちが「生きている」ということ、何という奇跡か、何て素晴らしいことか。何てありがたいことか。「生きたい」と願っても生まれた時代によって、また生まれた環境によって、未来への扉を閉ざされる人もいます。

ひと月ほど前でしょうか、「社会を明るくする運動」の一環として行われた高校生弁論大会で、島原中央高校3年生の徳永ひなさんの弁論が最高賞である島原市長賞を獲得しています。冒頭部分を紹介します。

『皆さん、まず心を痛めてください。世界中では4.8秒に一人、5歳未満の乳幼児が、平等に与えられるべき明日への命を病気で奪われ、2030年までには1億6700万人の子供が貧困に苦しみ、希望ある未来への扉を開けないまま死にゆくことを。』

そして、弁論はこう結ばれています。

『私は、将来、ユニセフに携わる仕事がしたいです。世界の全ての子供が衣食住はもちろん、守られた環境で健やかに育ち、教育を受け、スポーツを楽しみ、自らの意見を聞いてもらえ、将来に希望が持てる国際社会を築く行動で私はこれから生き抜きたいのです。この瞬間にも消えゆく幼い命があることを忘れたくないのです。』

私たちが生まれたのは偶然ではなく、何らかの「使命」を持って生まれてき

ていると思っています。徳永ひなさんは、将来、貧困に苦しみ、希望ある未来への扉を開けないまま死んでいく子供たちを救うこと、それを自分の「使命」として生きていきたいと述べています。今ここにいる3年生は、消防士になりたいとか、看護師になりたいとか、作業療法士、ウエディングプランナー、フランス料理のシェフとか、それぞれの目標を持って学習に励んでいます。それぞれの道で人を助けたり、喜ばせたりする、その「使命」を果たすために人は学びます。勉強の本当の目的は、いい成績を取るためとか大学に合格するためにやっているのではありません。よりよく自分の命を使えるよう私たちは学んでいます。よく「人に迷惑をかけないように生きなさい」と言いますが、それは無理です。50歳を過ぎた私も沢山人に迷惑をかけながら生きています。「人に迷惑をかけない生き方」ではなく、「人の役に立つ生き方」をなさい。それが私たちの「使命」です。

昨年、105歳で亡くなられた、生涯現役の医者として活躍された日野原重明の「いのちの使い方」ということばがあります。

『いのちは時間である。いのちの時間は長短が問題なのではなく、どうやって深め、質を高められるかが問われる。人間にとって、生きている実感を味わえる、いちばん充実した過ごし方は、助けを求めている人のために自分の時間を使うことだと思ふのです。だれかの役に立つということは、自分という存在そのものが生かされているということです。』

今日は、今、自分が生きていることを実感する、これからも一所懸命に生きていくことを心に誓う、そしてどう生きていくのかを考える日だと思います。最後に詩人の谷川俊太郎さんの「生きる」という詩を紹介して私の話を終わります。

「生きる」 谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみをする事
あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ

それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美しいものに出会うということ
そして かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

生きているということ
いま生きているということ
いま遠くで犬が吠えるということ
いま地球が廻っているということ
いまだどこかで産声があがるということ
いまだどこかで兵士が傷つくということ
いまぶんこがゆれているということ
いまいまが過ぎていくこと
生きているということ
いま生きているということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ